

「恩返しのマスク寄付活動」報告書

2020年4月から5月の間、新型コロナウイルスが日本でますます猛威を振るっていた頃、広島県華僑華人総会及び一般社団法人外国人支援センターは共同で「恩返しのマスク寄付活動」を企画し、落ち着いた中国からマスクを調達、防護用品不足の日本社会に寄付することを実施しました。

去る2月中に、Covid-19が中国で猛威を振るっていた頃に、日本の皆様から多大な支援をいただいたこともあり、この度の寄付活動は日本社会への「恩返し」でもあります。この企画には瞬く間に広島県華僑華人総会や外国人センターからの有志達が集まり、最初予定していた2万枚のマスク寄付数も、会員や関連者の厚意を受け、合計4万3千枚に達し、その後も続々と追加寄付で全部5万6千5百枚にものぼりました。当時非常にマスク不足の市場での価格にして総額二百五十万円の金額を超えました。

4月末頃、中国から緊急に調達したマスクを一早く広島地域の各医療福祉機関や国公立小中高、私立大学など学校法人へ届け、そして日頃からお世話になった関連公益ボランティア団体や公益財団法人または企業へ送りました。また、緊急事態宣言が発令されても、普段通り市民のために業務執行をされる行政機関へも送りました。広島市役所を通してすべての区役所に届き、広島入国管理局の窓口で自由配布の箱を設置したり、広島駅での街頭配布をしたり、できるだけ広島地域社会全体への気配りをさせていただきました。5月末までに、合計37機関へ5万6千5百枚のマスク寄付を行いました。

一連の寄付活動で、寄付先の機関から沢山の感謝状や手紙をいただき、地元の新聞社にも記事にして頂きました。広島地域社会で生活している一員の我々にしては、当たり前のことでもあります。これを機に、在日同胞の日本社会におけるイメージアップを図り、真の中日友好を促進したいと考えています。

今年は広島県華僑華人総会にとって、成立して10年目の節目でもあります。これまでの試練や挫折も将来への糧として、みんな一致団結し、気を引き締めながら精進する所存でございます。

最後に、この場を借りて、今回の「恩返しのマスク寄付活動」企画に大いに理解と支援を頂いた関係者の方へ心からの感謝を申し上げます：

総会理事：曾憲忠、潘忠信、孙明

総会会員：刘雪愿、李铁军、白小强、戴慧晴、黄欢

広島県華僑華人総会
2020年6月3